

# 大阪湾再生行動計画（第三期） 令和6年度の取り組み成果 【概要版】

令和7年3月  
大阪湾再生推進会議

# 背景(1)

## ①大阪湾の特性

- 2箇所(明石海峡(4km)、紀淡海峡(7km))を持つ閉鎖性の高い海域(海域面積:1,447km<sup>2</sup>、平均水深28m)
- 大きな人口・産業集積を有する集水域を抱える(集水面積11,200km<sup>2</sup>、人口1,715万人(令和5年1月時点))

➡ 陸域から大量の汚濁負荷が流入するとともに、外海との海水交換がしにくい地形から、富栄養化による水質の悪化や、生物生息環境の悪化が生じやすい。



集水域界  
大阪湾とその集水域

## ②第一期計画の評価と課題

### 【最終評価(総括)】

- 湾口部～湾央部では、水質改善が進んでいるものの、栄養塩不足の声もあり。
- 湾奥部は、汚濁の改善がみられず、貧酸素状態もみられる。
- 施策の効果とみられる変化あり。(汚濁物質濃度の減少、再生された干潟等での生物生息など)
- 森・川・海の住民参画による取り組みへの参加者が増加するとともに、環境にふれあう場が拡大。

### 【課題】

- (1) 多様な生物の生息・生育
  - 特に湾奥部において、底層DO改善のための取り組みの強力な推進が必要。
  - 生物の生息・生育場については、今後も積極的な整備を進めていくことが望ましい。
- (2) 人と海との関わり
  - 特に湾奥部において、水質改善のための取り組みの推進が必要。
  - 親水活動の場については、今後も積極的な整備の推進を行うことが望ましい。
  - 浮遊・漂着・海底ごみについても、引き続き積極的な取り組みの推進が望ましい。

# 背景(2)

## ③第二期計画の評価と課題

### 【最終評価(総括)】

- 美しい「魚庭(なにわ)」の海:海の色・においごみについて、利用者からポジティブな回答が増加しており、取り組みによる成果が現れていると考えられた。
- 親しみやすい「魚庭(なにわ)」の海:親水護岸及び親水緑地の整備が進むとともに、親水施設が利用され、イベントが継続的に開催されている。
- 豊かな「魚庭(なにわ)」の海:底層DOは改善傾向にある。また、干潟や緩傾斜護岸等で整備が進むとともに、底生生物の種類数や個体数が増えている地点もみられる。



### 【課題】

#### (1)美しい「魚庭(なにわ)」の海

全窒素・全リンの低下は湾奥部ほど顕著であるが、湾中央部から湾口部にかけては貧栄養が課題である。河川ごみ・海洋ごみについては、回収活動が継続的に実施されているものの、陸域での発生源対策、マイクロプラスチックになる前の対策等も必要である。

#### (2)親しみやすい「魚庭(なにわ)」の海

親水施設の整備・維持管理、パブリックアクセスの向上とあわせて、施設の利活用や多彩なイベントの継続・内容の充実化及びこれらの広報等が重要である。市民や企業の参画促進・支援については、参画・支援の実施状況を把握するとともに、参画しやすい活動の実施及び支援内容等について調整を進めることが重要である。

#### (3)豊かな「魚庭(なにわ)」の海

底層DOは改善傾向にあるが、湾奥部は夏季に5.0mg/L以下となっている。生物が生育・生息できる場の整備・維持管理とともに、生物の生育・生息に適した水質(栄養塩類、溶存酸素量)の維持、水質が悪くなる原因となっている窪地の修復等が必要である。また、生物多様性の保全等の取り組みの促進及び支援等も重要である。地球温暖化対策の観点からは、ブルーカーボン生態系の取り組みを拡大していくことが望まれる。

# 大阪湾再生行動計画(第三期)の概要

## ①意義・方向性

- 大阪湾はそのほとんどが大都市圏に囲まれており、高度成長期以降の都市化の進展に伴い、水質汚濁が慢性化し、人と海との関わりも希薄化してきた。  
大阪湾の水質を改善し、人と海の間隔を回復する「大阪湾の再生」は、豊かでうるおいある質の高い都市生活の実現に不可欠の取組である。  
更に、海は海草・海藻類、底生生物、魚類、鳥類等が生息する豊かな生態系を育み、生態系サービスを通じて人々の生活・経済を支える存在であり、「大阪湾の再生」により大阪湾が持つ機能を回復することは、大阪湾に関わる人々の持続可能で豊かで質の高い生活の実現に寄与するものである。  
こうした認識を踏まえ、以下の方向性で大阪湾の再生を進めていくものとする。

## ②目標

森・川・里・都市・海のネットワークを通じて、美しく豊かで親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」を回復し、多様な主体や世代が参画・連携して「次世代に引き継げる大阪湾」を創出する

## ③計画期間

- 令和6年度から令和15年度までの10年間

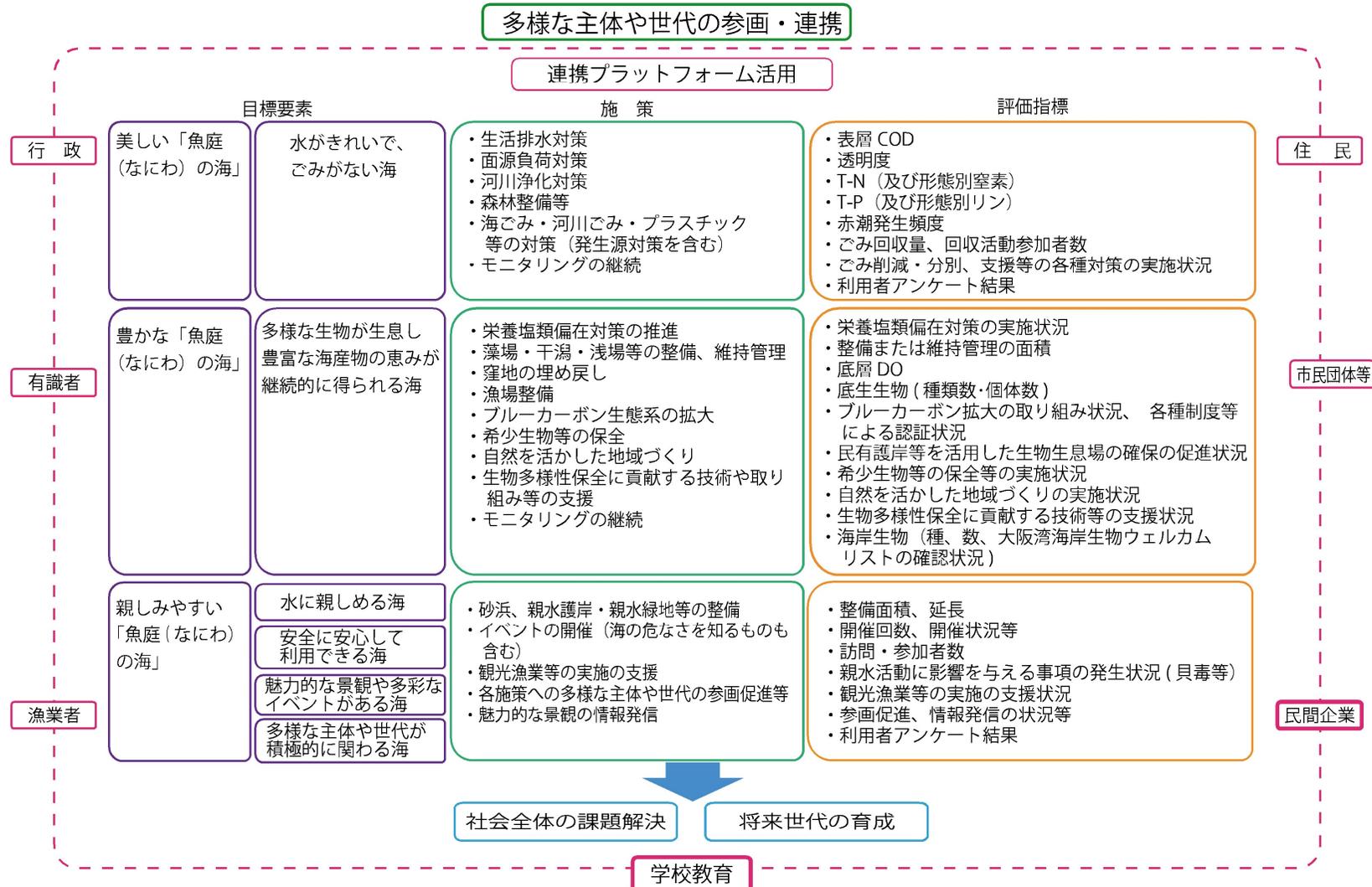
## ④取り組み体制

- 大阪湾再生推進会議において策定・推進する。
- 推進会議には幹事会を置き、幹事会にはワーキンググループ(陸域、海域、モニタリング、全体)を置く。

# 目標達成状況の評価について

## ⑤ 目標達成状況の評価について

- 目標を3つの目標要素に区分し、それぞれの目標要素を達成するための施策、施策の達成状況の評価するための評価指標、及び関係者を設定する。
- 目標達成状況は、評価指標の経年的な変化等で評価し、進捗状況を順応的に管理する。



※第三期計画では、民間企業及び学校教育との連携をより一層図っていく。

# I 目標達成狀況

# 美しい「魚庭の海」に向けた 取り組みの状況

# 美しい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その1）

## 取り組みの状況

### 1. 生活排水対策

- 下水道の普及促進、高度処理化、農業集落排水事業等により、陸域から流入する汚濁負荷を削減。
  - ・下水道普及率：86.7%（H16）→96.1%（R5）
  - ・高度処理普及率：37.9%（H16）→59.8%（R5）
  - ・農業集落排水施設整備率：79.4%（H16）→100%（R5）

### 2. 面源負荷対策

- 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業の実施。

### 3. 河川浄化対策

- 浄化浚渫等により、河川の浄化を実施。（琵琶湖内湖、平野川）

### 4. 森林整備等

- 行政や市民、企業等の参加による森林整備を実施。

### 5. 海ごみ・河川ごみ・プラスチック等の対策（発生源対策を含む）

- 河川・海域で、行政や市民・企業等の参加によるごみ回収活動を実施。

### 6. モニタリングの継続

- 大阪湾再生水質一斉調査、水質・底質・ごみの量等の各種モニタリングを継続実施。



# 美しい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その2）

## 取り組みの評価結果

### 1. 表層COD <5mg/L以下>※

- 湾奥部：夏季に概ね5mg/L以上。
- 湾口部～湾央部：夏季に概ね3mg/L以下。

### 2. 透明度※

- 湾奥部：夏季に概ね2~3m程度。
- 湾央～湾口部：夏季に概ね5m以上。

### 3. 窒素、4. 燐※

- 湾央部～湾奥部：概ね減少傾向。

### 5. 赤潮の発生状況

- 行動計画策定以降年間10~29件発生。  
令和4年度には赤潮が10件発生。

### 6. ごみ回収量・回収活動参加者数

- ごみ回収量：811.8t（見込み）
- 回収活動参加者数：26,119人（見込み）

※ <>内は評価指標値の目安

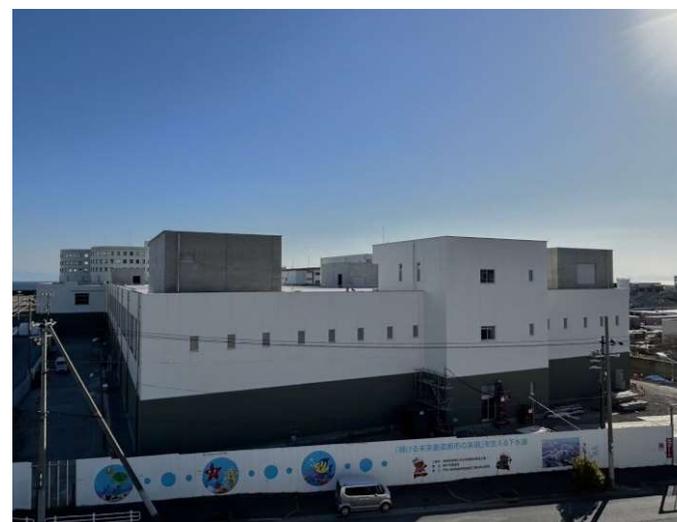
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用

## 取り組みの成果

- 湾奥部では快適な散策・展望に適さないとされている水質の海域があるものの、窒素・燐は概ね減少傾向がみられる等、水質に変化がみられる。
- 湾口部や湾央部は、水質が悪化する夏季においても、散策・展望の面からは概ね良好な水質を維持している。
- 積極的なごみ回収活動の実施やマイクロプラスチックの削減に向けた検討等が望まれる。

# 1. 生活排水対策(その1)

- 汚濁負荷量の総量削減を実施。
  - ・ 第9次総量削減方針の推進。[環境省]
  - ・ 第9次総量削減計画の実施。第9次総量削減計画の推進。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県]
- 下水道の普及促進を実施。[滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、京都市、堺市、神戸市]
- 高度処理施設の増設及び改築の促進。[滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、京都市、堺市、神戸市]
- 合流式下水道の改善を実施。[大阪府、大阪市]
- 農業集落排水施設の整備・改築更新・機能強化等を実施。[近畿農政局、京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県]
- 流域住民の参加による負荷削減対策として大和川水質改善強化月間を実施。[近畿地方整備局]



高度処理施設（西部北系）



高度処理化等取り組み施設  
(令和6年度)

# 1. 生活排水対策(その2)

## 【下水道事業】

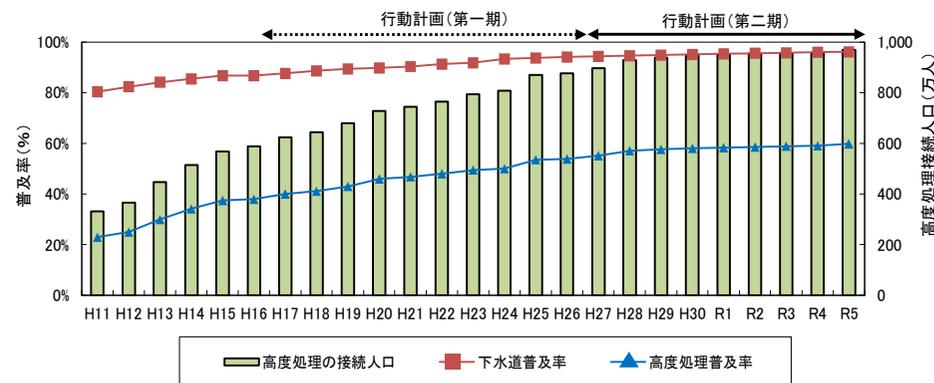
- 下水道普及率、高度処理普及率ともに着実に向上。

○ 下水道普及率：

86.7% [H16] → 96.1% [R5]

○ 高度処理普及率

37.9% [H16] → 59.8% [R5]



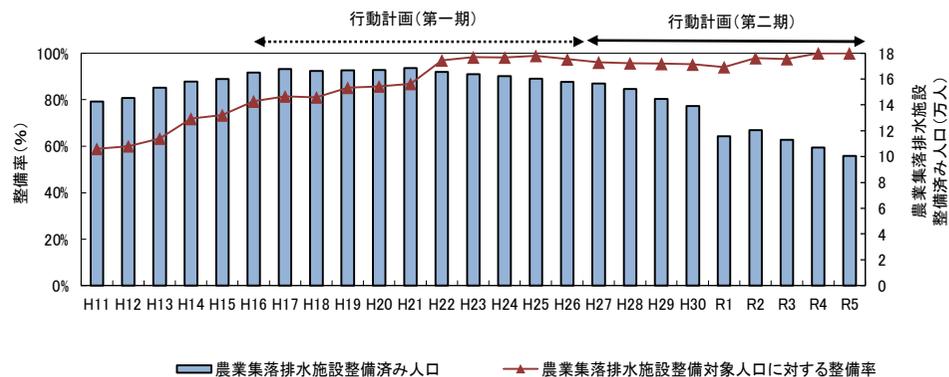
※下水道普及率、高度処理普及率は大阪湾流域内人口に対する処理区域内人口の割合を示す。

## 【農業集落排水事業】

- 農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は100%を達成。

○ 農業集落排水施設整備率

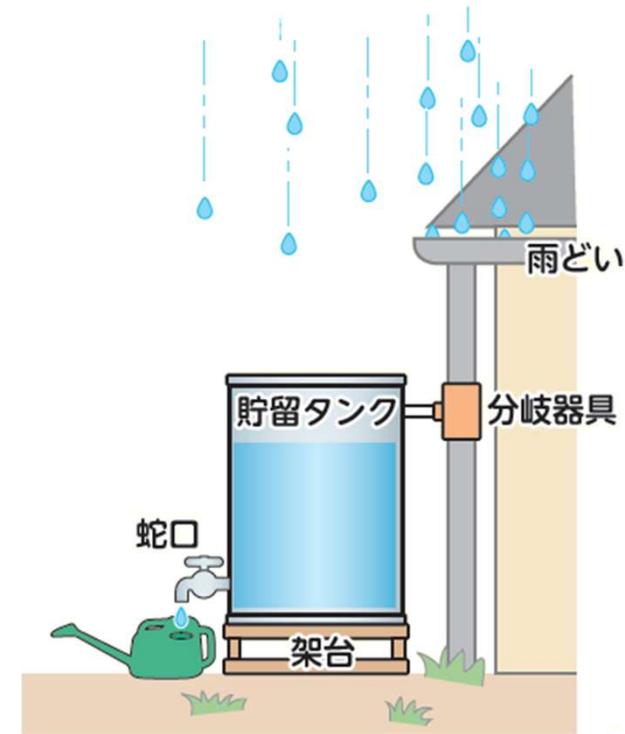
79.4 % [H16] → 100% [R5]



※農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は整備計画人口に対する整備済み人口の割合を示す。

## 2. 面源負荷対策

- 雨水幹線の整備等により降雨時に流出する汚濁負荷の軽減を実施。（山寺川市街排水浄化対策事業、守山栗東雨水幹線整備事業〔滋賀県、草津市、守山市、栗東市〕）
- 助成制度により一般家庭等を対象とした雨水貯留タンクの普及促進。〔大津市、京都市、京都府内関係市町村、大阪市〕
- 農業濁水の発生抑制・流出防止のため、チラシ、巡回による啓発活動、新たな濁水対策技術の普及定着を実施。〔滋賀県〕



一般家庭等に設置する  
雨水貯留タンクのイメージ

# 3. 河川浄化対策

- 河川浄化施設の整備、維持管理、水質改善効果等の確認を継続実施。[滋賀県、大阪府、奈良県]
- 浄化浚渫、覆土工を継続実施。（琵琶湖内湖（木浜内湖）[滋賀県]、平野川 [大阪府]）



河川浄化浚渫・覆土の実施場所



覆土工の実施状況（木浜内湖）



浚渫工（木浜内湖）

# 4. 森林整備等

- 森林の持つ多面的機能の持続的発揮に向けた、森林整備事業、治山事業等を実施。  
（間伐、保安林指定等）〔近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、兵庫県関係市町ほか〕
- 市民、NPO、企業等の参画・連携による森林整備を実施。（伊崎国有林、箕面国有林）〔近畿中国森林管理局〕
- 森林ボランティア団体への支援を実施。  
（企業の森づくり活動を支援等）〔滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県〕
- 公共工事での間伐材等の利用を推進。〔近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県〕



下刈り(伊崎国有林)

ボランティアによる森林整備



森林教室(箕面国有林)

森林環境教育の様子

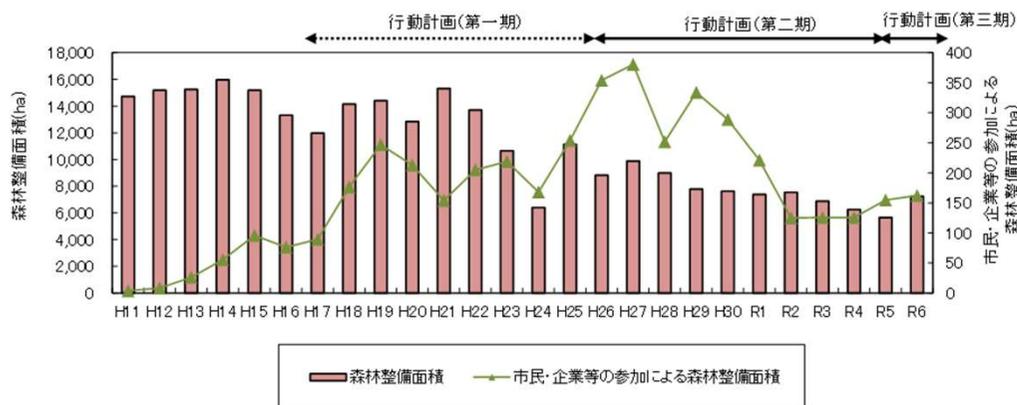


丸太式残存型柵(京都府内)



木製校倉式床固工(和歌山県内)

公共工事での間伐材の利用



市民、NPO、企業等の参画・連携による主な森林整備の実施場所

# 5. 海ごみ・河川ごみ・プラスチック等の対策

- 市民・NPO・企業・行政が一体となった河川清掃活動を実施。（淀川水系、大和川水系等）〔近畿地方整備局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県等〕
- 市民・企業等との連携による海岸美化活動を継続実施。〔近畿地方整備局及び各自治体、アドプト・シーサイド・プログラム、ボランティア団体海守OSAKAなど〕
- 海ごみ・漂着ごみ・海底ごみを回収。〔大阪府、（特非）海域美化安全協会〕
- 海事関係者への巡回及び訪船による海洋汚染防止指導を実施。〔第五管区海上保安本部〕、海洋環境整備船により浮遊ごみを回収。〔近畿地方整備局〕
- 海洋短波レーダー及び大阪湾内11地点に設置した水質定点自動観測機器による連続観測によるデータをリアルタイムでインターネット配信。〔神戸港湾空港技術調査事務所、神戸港湾事務所〕



大和川一斉清掃

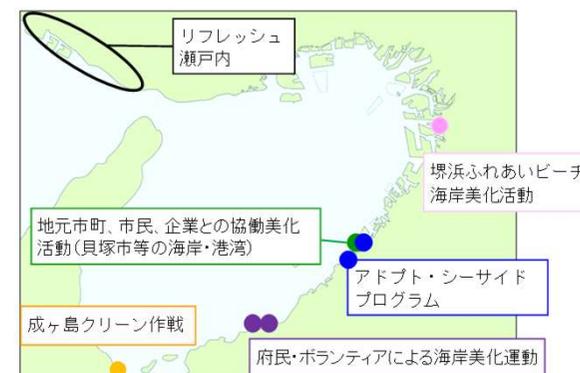


大和川クリーンデー



海洋環境整備兼油回収船等による浮遊ごみ等の回収

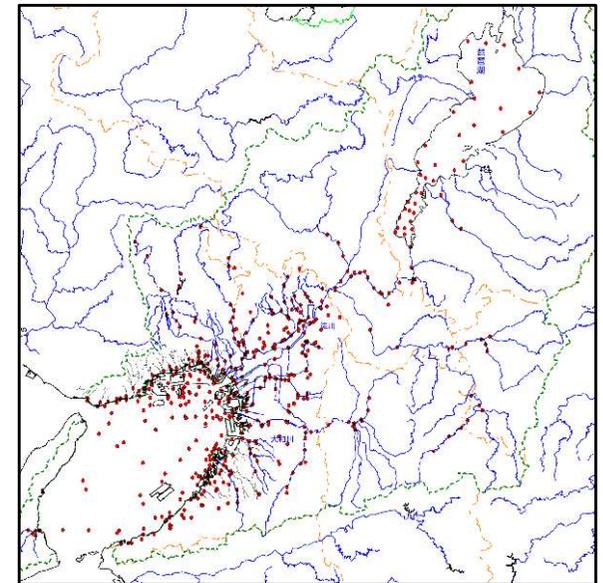
## 主なごみ回収活動の実施状況



## 主な海岸美化活動の実施状況

## 6. モニタリングの継続

- 大阪湾再生水質一斉調査を、海域28機関(154地点)、陸域18機関(347地点)が実施。[神戸港湾空港技術調査事務所、各自治体、民間企業、研究機関など]
- 大阪湾水質定点自動観測を継続実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]
- 広域総合水質調査、瀬戸内海総合水質調査、公共用水域水質調査における水質・底質等の調査を継続実施。[環境省、各自治体]
- 水生生物調査として、瀬戸内海総合水質調査の大阪湾の底質調査地点において、水塊動向の結果として底生生物への影響について調査を実施。[神戸港湾事務所]
- 地域住民等と協働による河川水質調査を実施。[近畿地方整備局]
- 窪地修復等に関する検討会でモニタリング結果や窪地の埋め戻しに関する課題等の検討を実施。[近畿地方整備局]
- 事業実施個所でのモニタリング調査を実施。[大阪湾広域臨海環境整備センター]
- 大阪湾に流入するプラスチックごみ量の推計及び大阪湾の海岸におけるごみの組成調査を実施。[大阪府]
- 各調査結果をホームページ等で公開。[近畿地方整備局、各自治体など]



令和6年度大阪湾再生水質一斉調査  
の実施地点(地点)

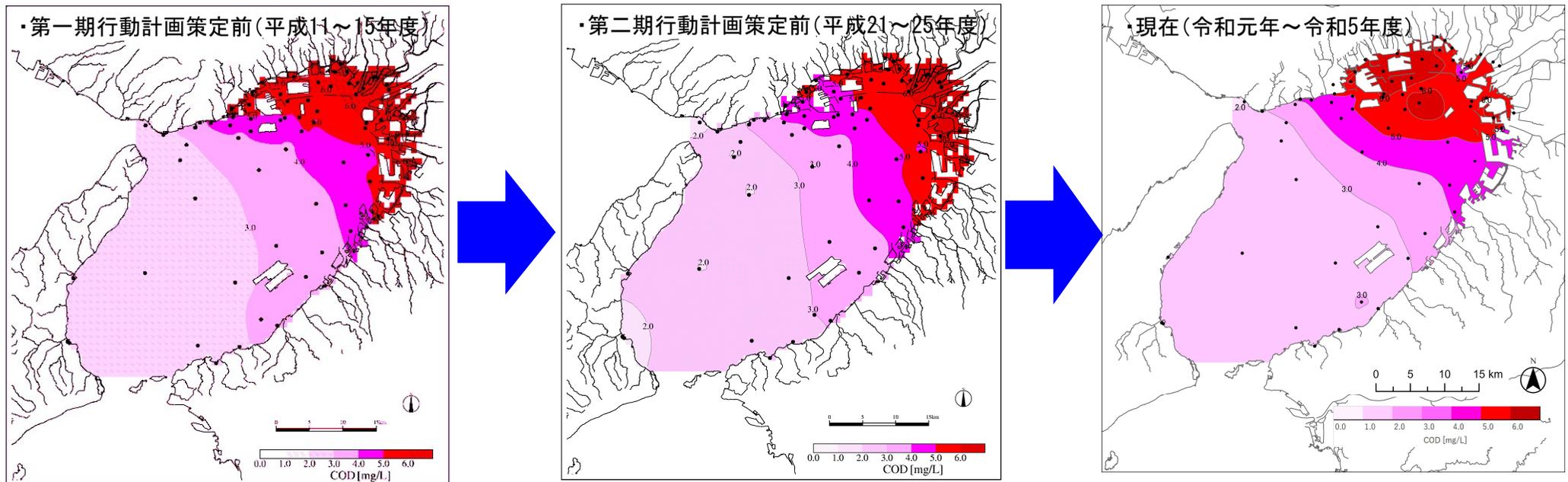
# 美しい「魚庭の海」に向けた 取り組みの評価結果

# 1. 表層COD

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較  
夏季では、依然として湾奥部の一部で快適な散策・展望の目安となる5mg/Lを超える海域がみられる。
  - 第二期行動計画策定前と現在の比較  
湾奥部、特に堺港周辺で5mg/Lを超える領域がやや縮小している。
- ⇒特に湾奥部において、今後取り組みを推進することが望まれる。

・夏季(6~8月)5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

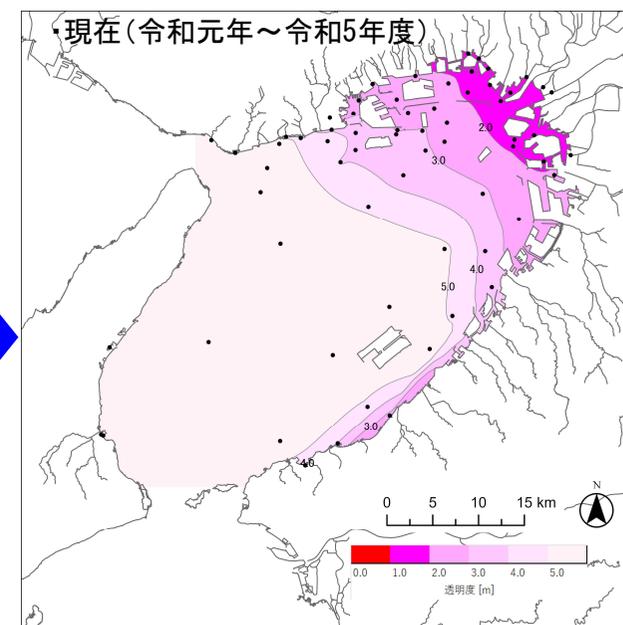
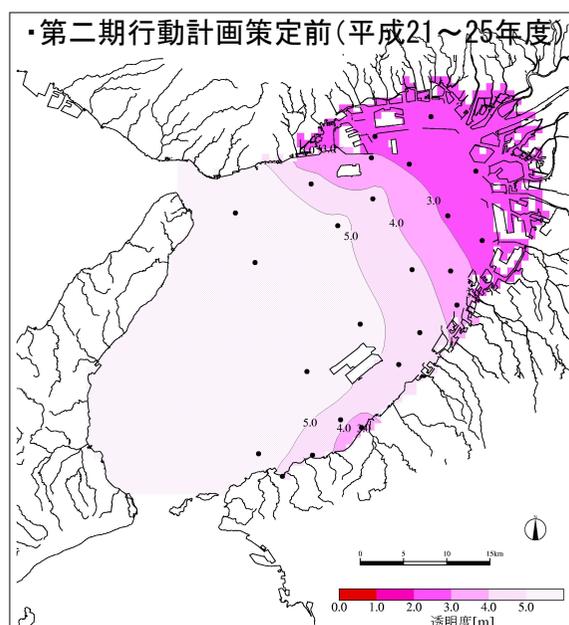
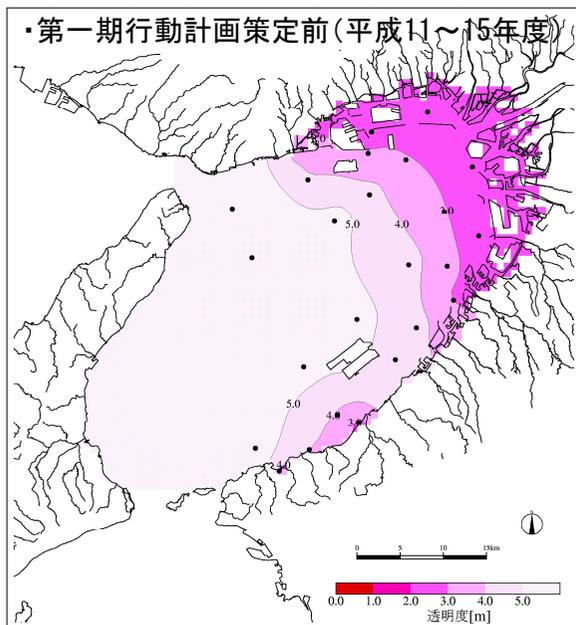
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

# 2. 透明度

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較  
夏季では、湾央~湾奥部では2~3m程度の透明度が低い海域がみられ、湾口部では5m以上の透明度が高い海域が湾奥部方向へ拡大している。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較  
夏季では湾央部の5m以上の海域が、湾奥部方向へ拡大している。

・夏季(6~8月)5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

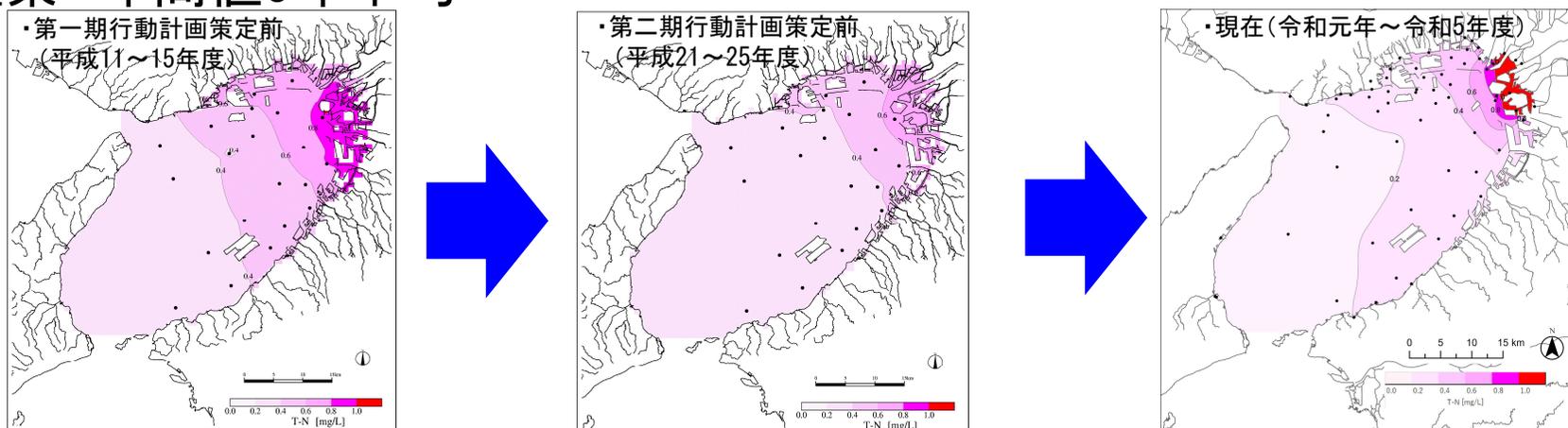
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

# 3. 窒素

## 【公共用水域水質測定結果による5年平均※】

### ● 全窒素

- ・第一期行動計画策定前と現在の比較：湾中央～湾奥部で減少傾向がみられる。
- ・第二期行動計画策定前と現在の比較：湾口部で減少傾向がみられる。
- ・全窒素 年間値5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

資料）公共用水域水質測定結果より作成

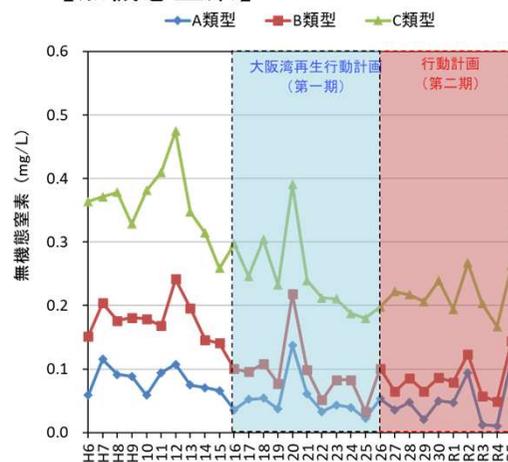
### ・ 形態別窒素の経年変化(年平均値)

### ● 形態別窒素

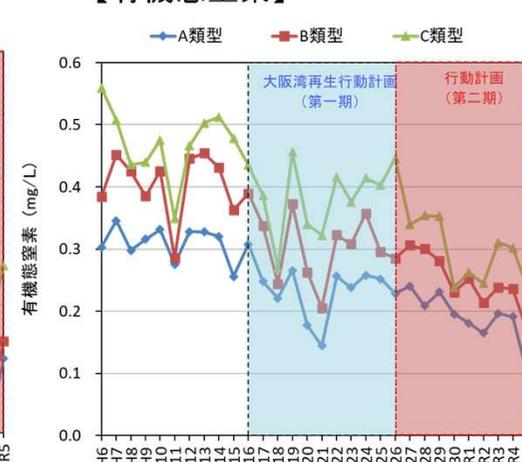
- ・年による変動がみられるものの、第二期計画策定(平成26年度)以降は、無機態窒素は概ね横ばい、有機態窒素は減少傾向を示す。



#### 【無機態窒素】



#### 【有機態窒素】



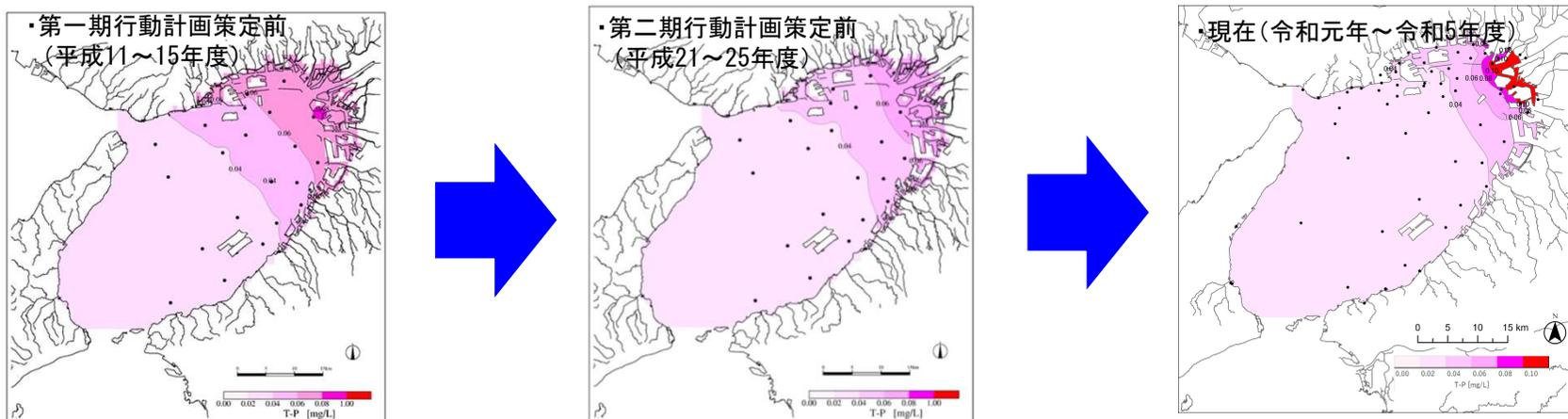
資料）大阪府公共用水域水質測定結果より作成

# 4. 燐

## 【公共用水域水質測定結果による5年平均※】

### ● 全燐

- ・第一期行動計画策定前と現在の比較：湾央～湾奥部で減少傾向がみられる。
- ・第二期行動計画策定前と現在の比較：湾奥部地点でやや増加傾向がみられる。
- ・全燐年間値5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。  
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

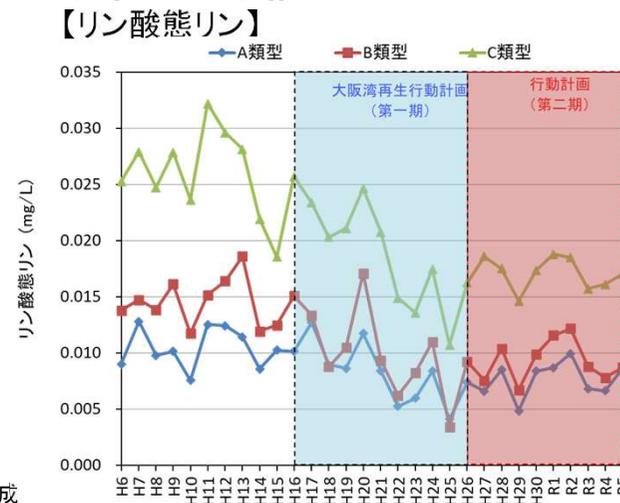
### ・ 形態別燐の経年変化(年平均値)

### ● 形態別燐

- ・ 無機態燐であるリン酸態リンは、平成12年頃から変動しながら減少傾向がみられる。
- ・ 第二期行動計画策定(平成26年度)以降は概ね横ばい傾向にある。



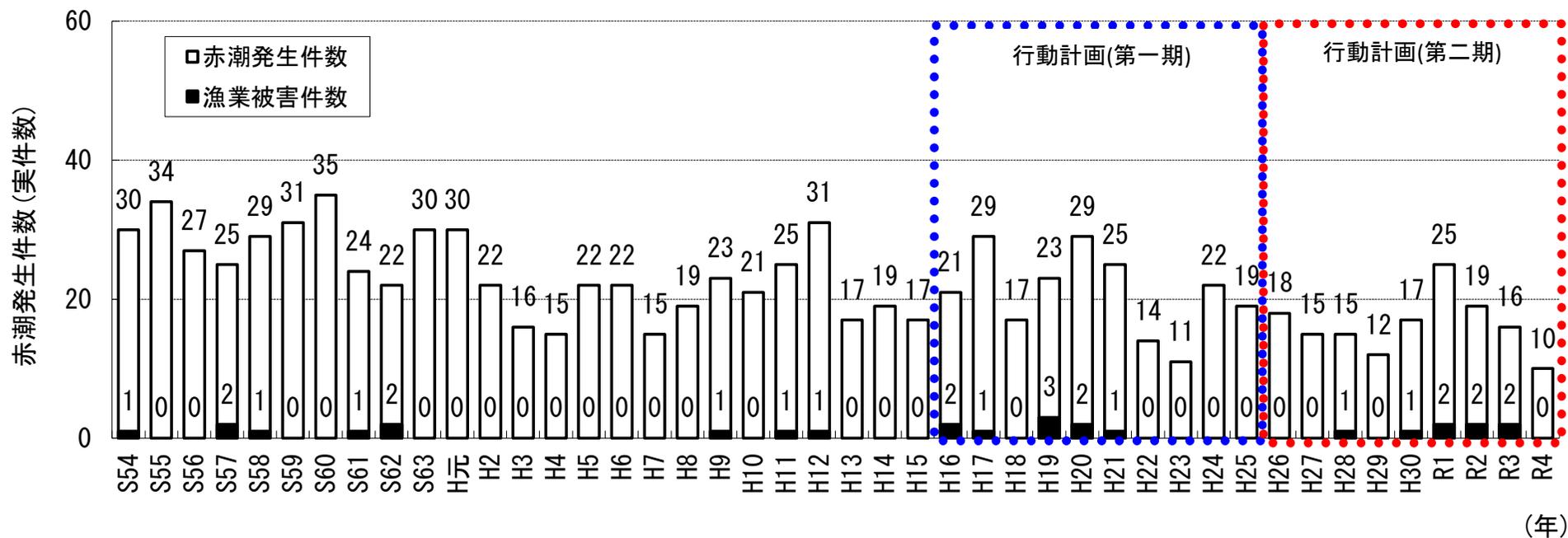
資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成



# 5. 赤潮の発生状況

- 第一期行動計画期間（平成16～25年）中の赤潮発生数は11～29件の範囲、第二期行動計画策定（平成26年度）以降は10～25件の範囲で推移していた。令和4年度には赤潮が10件発生。
- 令和4年度は、漁業被害の報告はなかった。

経年変化（大阪湾における赤潮の発生件数）



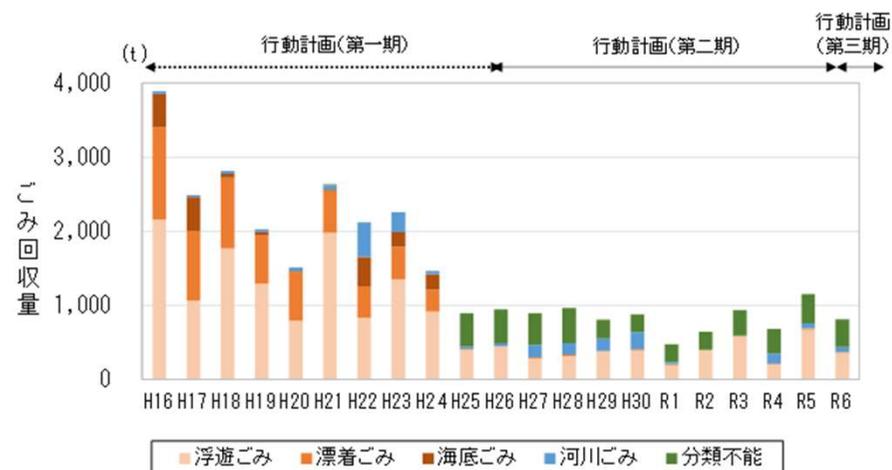
資料) 瀬戸内海の赤潮より作成

# 6. ごみ回収量・回収活動参加者数

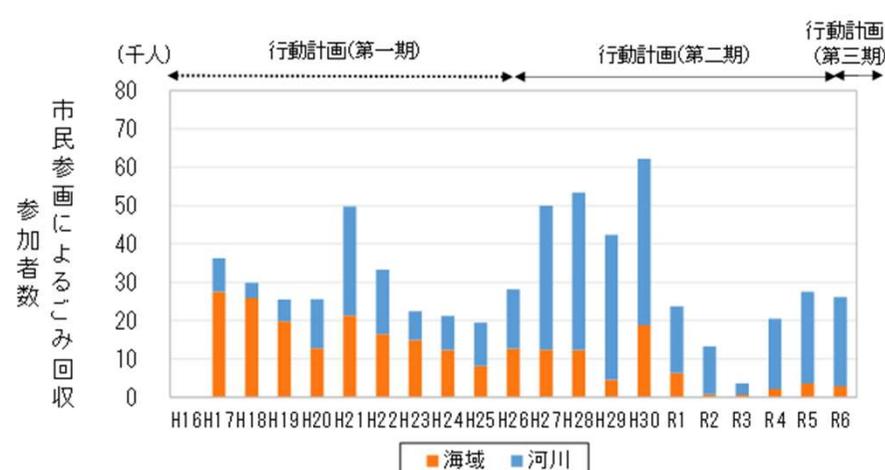
- ごみ回収量：811.8 t（見込み）（R6）
- ごみ回収活動参加者数：26,119人（見込み）（R6）

◆さまざまな機関、団体等により、ごみ回収が実施されている。

【ごみ回収量の経年変化】



【ごみ回収活動参加者数の経年変化】



※平成16年度は参加者数を把握していない。

# 豊かな「魚庭の海」に 向けた取り組みの状況

# 豊かな「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その1）

## 取り組みの状況

### 1. 栄養塩類偏在対策の推進

- 海底耕耘、ため池の池干し(かいぼり)を実施。

### 2. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

- 堺2区人工干潟の環境の変化の推移を調べるため、環境調査を継続実施。

### 3. ブルーカーボン生態系の拡大

- ノリ養殖のブルーカーボンクレジットを評価。アマモ場創出ガイドブック(仮)を作成中。

### 4. 窪地埋め戻し

- 港湾及び河川からの土砂を用いて阪南2区沖、阪南4・6区沖の窪地の埋め戻しを実施。

### 5. 漁場整備

- 岬町地先海域において、増殖場造成のため藻場ブロック礁を12基設置。

### 6. 希少生物等の保全

- 大阪湾生き物一斉調査の「大阪湾海岸生物ウェルカムリスト」を活用し希少生物を把握。

### 7. モニタリングの継続

- 大阪湾生き物一斉調査、漁場環境調査等の生息状況のモニタリングを実施。



# 豊かな「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その2）

## 取り組みの評価結果

※ <>内は評価指標値の目安

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用

### 1. 底層DO <5mg/L以上>※

- 湾奥部：夏季に5mg/L未満の海域がみられる。
- 湾口部～湾央部：夏季に概ね5mg/L以上。

### 2. 底生生物（種類数・個体数）

- 湾奥部から湾西部で**増加傾向**を示している地点がみられる。

### 3. 海岸生物（確認された種、数）[大阪湾生き物一斉調査の結果]

- **662種**（うち、**貴重種95種**）を確認。
- 河口～内湾型や内湾～外海型の生物の出現頻度が高かった。

### 4. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸の整備面積・延長

- 藻場の整備面積：**累積41.8ha**、干潟の整備面積：**累積1.3ha**  
浅場の整備面積：**累積2.4ha**、緩傾斜護岸の整備延長：**累積4.4km**

## 取り組みの成果

- 湾奥部では、依然として夏季に底生生物の生息に適さない海域がみられ、底生生物の種類数も少ないため、今後のさらなる取り組み推進が必要である。
- 湾口部・湾央部では、生物生息に十分な底層DOが確保されている海域が多く、底生生物について改善傾向がみられる海域があるものの、さらなる取り組みを推進することが望ましい。

# 1. 栄養塩類偏在対策の推進

- 対策のあり方や進め方の検討及び実施
- 瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく栄養塩類の供給に関する計画による取り組みの推進

## 2. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

- 堺2区人工干潟の環境の変化の推移を調べるため、環境調査を継続実施。〔大阪府〕
- 岬町地先海域において、増殖場造成のため藻場ブロック礁を12基設置。〔大阪府〕
- 漁協、地元企業、地元小学校・NPO等の協働による「兵庫運河の自然を再生する事業」を継続し実施。〔兵庫県〕
- 干潟（阪南2区人工干潟）での生物モニタリング調査の継続実施。〔ちきりアイランドまちづくり会〕
- 神戸港において生物生息機能の創出に向けた検討を実施し、緩傾斜護岸に海藻の付着が期待出来る被覆ブロックを設置。〔近畿地方整備局〕



主な藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備実施場所

# 3. ブルーカーボン生態系の拡大

- ひょうごの海を活用したブルーカーボン生態系の取り組み拡大として、ノリ養殖のブルーカーボンクレジットの可能性を評価するとともに、アマモ場創出ガイドブック（仮）を作成中。[兵庫県]

# 4. 窪地埋め戻し

- 阪南2区沖窪地を対象に本格的に埋め戻しの着工を開始。令和3年度からは阪南4・6区沖窪地の埋め戻しにも着工を開始。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 学識経験者を含めた関係者等による検討会を設置し、技術的検討を実施。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 令和6年度は、阪南2区沖窪地に、大阪港北港南地区航路の発生土及び武庫川の河川土砂、阪南4, 6区沖窪地に、和歌山下津港の発生土の投入を実施 [近畿地方整備局港湾空港部]



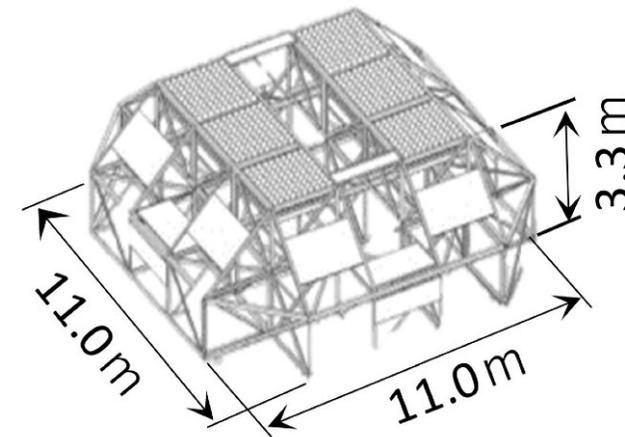
広域的な土砂の受け入れ実施

## 5. 漁場整備

- (再掲) 岬町地先海域において、増殖場造成のため藻場ブロック礁を12基設置。 [大阪府]



漁場整備実施場所



藻場ブロック礁 (イメージ)

## 6. 希少生物等の保全

- 6月に実施した大阪湾生き物一斉調査にて、「大阪湾海岸生物ウェルカムリスト」を活用し希少生物を把握。 [神戸港湾空港技術調査事務所]

# 7. 生物多様性保全に貢献する技術や 取り組み等の支援

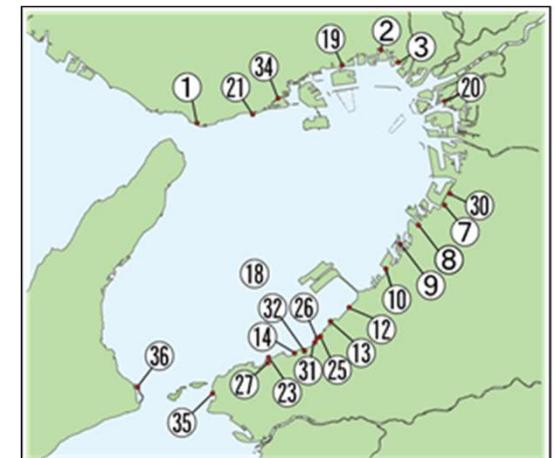
- 応援宣言の登録促進及び宣言した企業・団体に対してサポートを継続実施。〔大阪府〕

## 8. モニタリングの継続

- 大阪湾生き物一斉調査を24地点で1,385人が参加して実施。〔大阪湾環境再生連絡会〕
- 漁場環境等の調査を継続実施。〔(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所〕
- 重要水族の資源生態把握調査等を継続実施。〔兵庫県〕
- 漁場環境情報システムで水温等の環境情報を毎日提供。〔兵庫県〕
- 10地点で赤潮予察調査を実施し、ホームページで情報提供〔兵庫県〕
- 小中学校等と協働した水生生物調査を実施。〔近畿地方整備局〕



大阪湾生き物一斉調査(高師浜)



大阪湾生き物一斉調査の調査地点  
(令和6年度)

# 9. その他

- ウェブサイト「里海ネット」の運営継続、内容の充実。[環境省]
- 大阪湾の水産資源を増やすため、ヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグ等の種苗生産・放流を実施。[大阪府、大阪府漁業振興基金]
- 水産資源の維持増大のため、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ、マコガレイ、キジハタ、ガザミ等のほか、漁場改善に寄与することが期待されるマナマコとクマエビを豊かな海再生種苗として生産・放流を実施。[兵庫県、神戸市、洲本市、淡路市、漁業関係団体]
- 大阪湾沿岸部で水質調査結果の解析、深掘り跡での水質・底質・底生生物調査を実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]



稚魚放流

# 豊かな「魚庭の海」に 向けた取り組みの評価結果

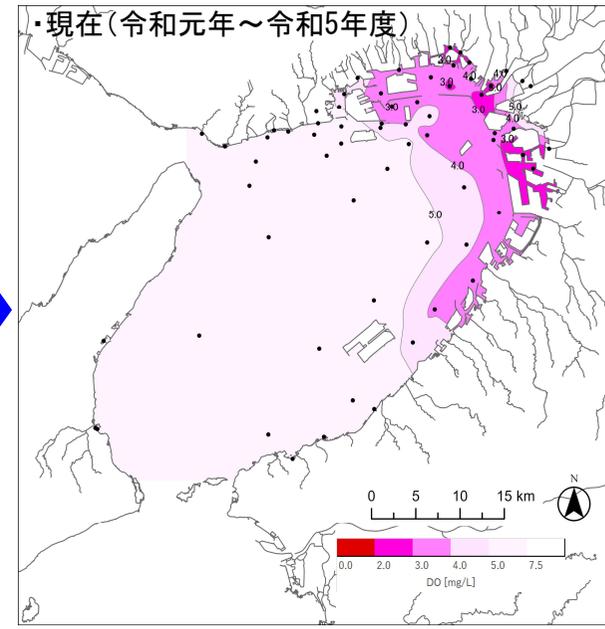
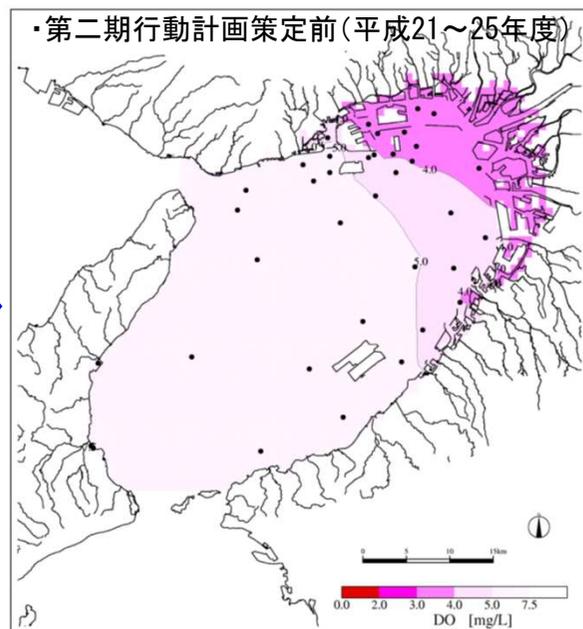
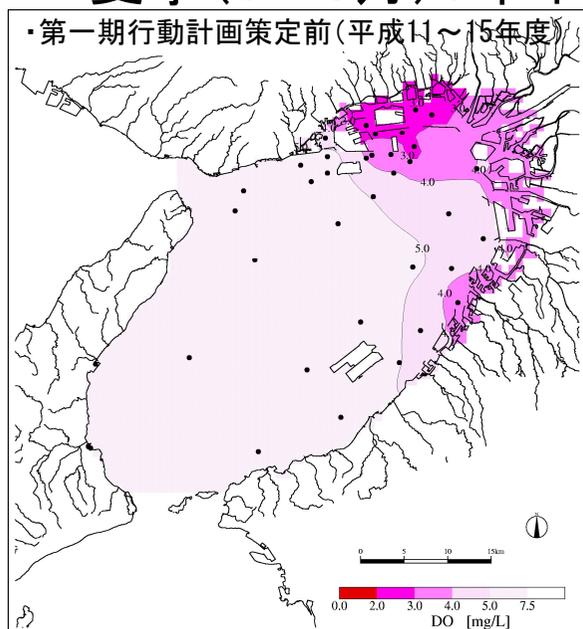
# 1. 底層DO

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較  
湾奥部で、夏季に依然として5mg/L未満の海域がみられるが、貧酸素の目安となる3mg/L未満の海域はほとんどみられなくなっている。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較  
湾口部、湾央部は夏季においても生物生息に十分な5mg/L以上を概ね維持しているが、湾奥部は以前として5mg/L未満の海域がみられる。

⇒特に湾奥部において、今後も取り組みを推進することが望まれる。

・夏季(6~8月)5年平均※



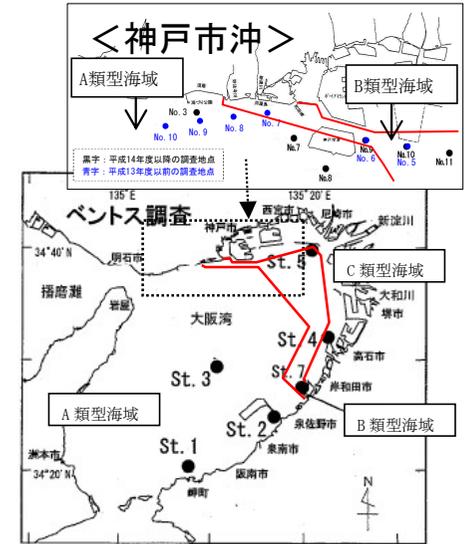
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※底層DOのデータは大阪府、兵庫県ともに環境基準に合わせて海底から1mで測定しているデータを使用している。

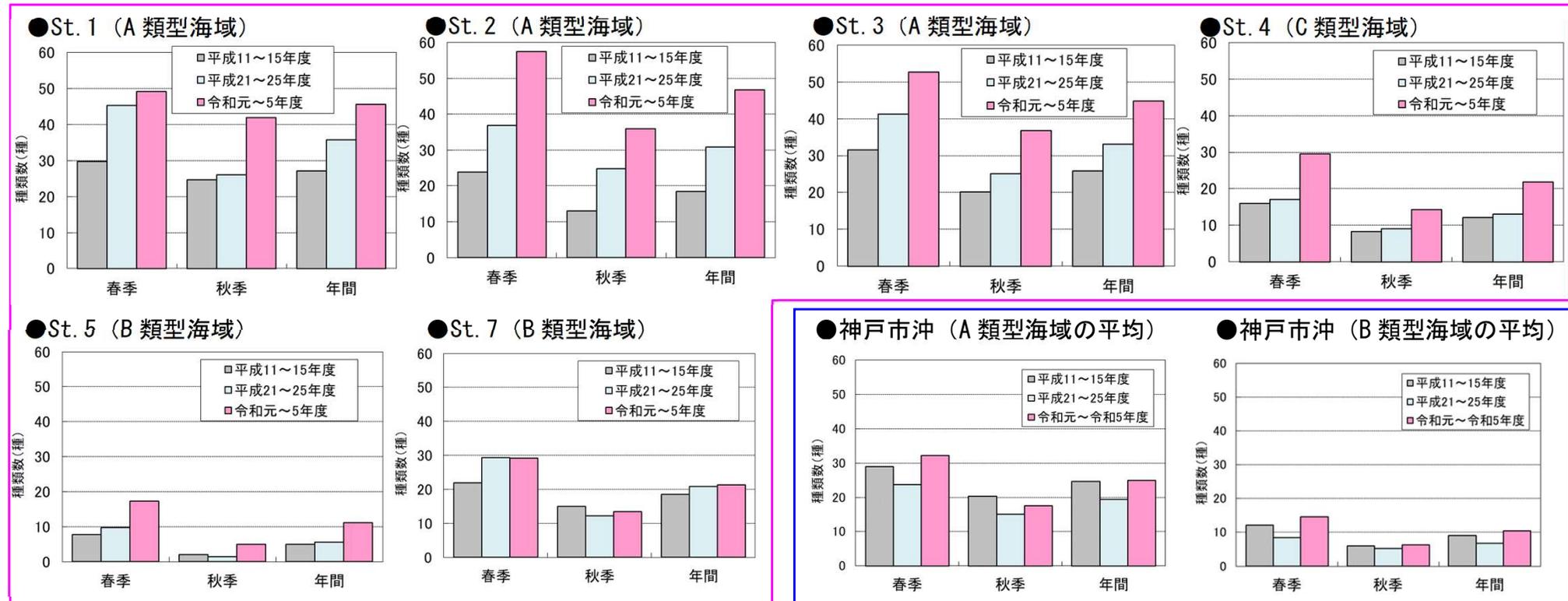
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

# 2. 底生生物(種類数)

- 湾奥部(B・C類型海域)で少なく、湾央～湾口部(A類型海域)が多い。
- 第一期行動計画策定前と現在の比較  
湾央～湾口部 (A類型海域) で増加がみられる。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較  
湾央～湾口部 (A類型海域) で増加がみられる。



## 変化図(底生生物・種類数)



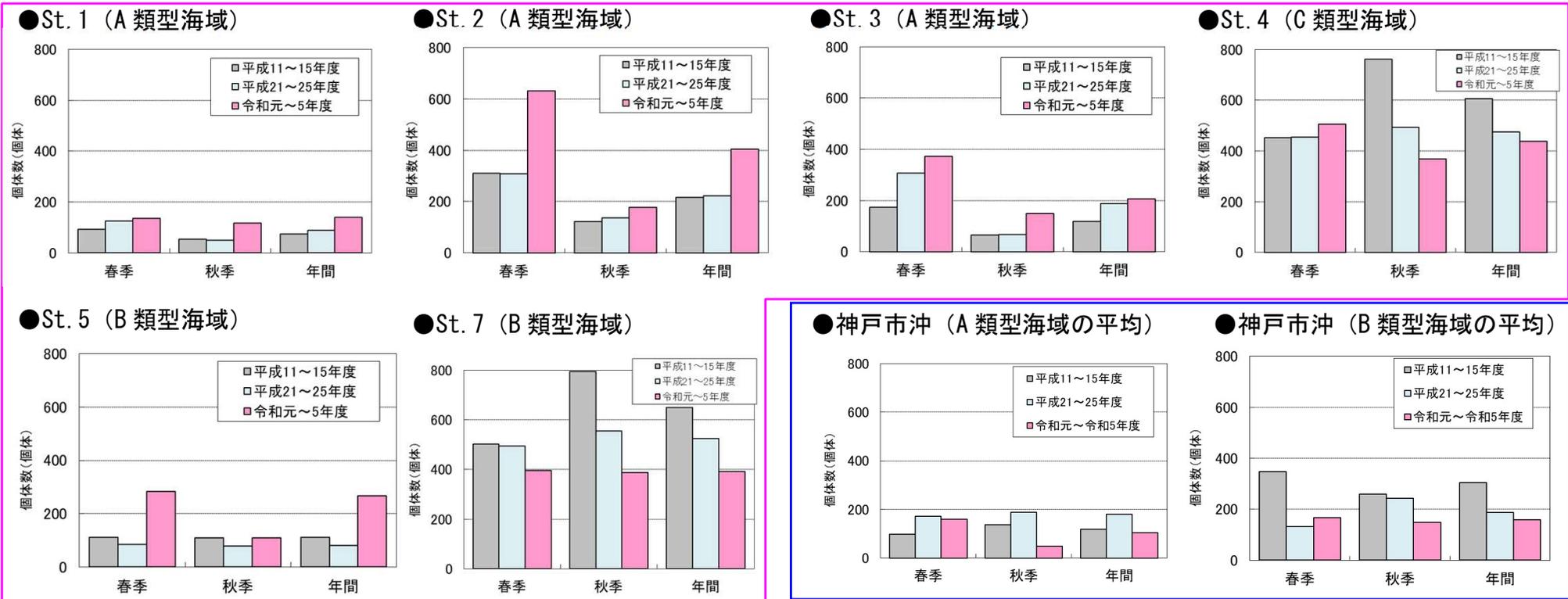
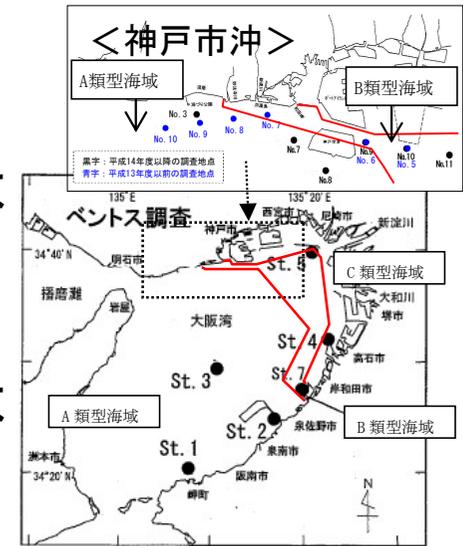
資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 ( (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター、環境水質 海域の水生生物調査(神戸市環境局)

※兵庫県域では平成29年度、令和元年度は底生生物調査を実施していない。令和2年度で調査を終了した。

※神戸市沖：約0.1~0.13m<sup>2</sup>(H21、H25、H27~H28、H30は約0.15m<sup>2</sup>)当たりの種類数、大阪府域：0.1m<sup>2</sup>当たりの種類数

# 2. 底生生物(個体数)

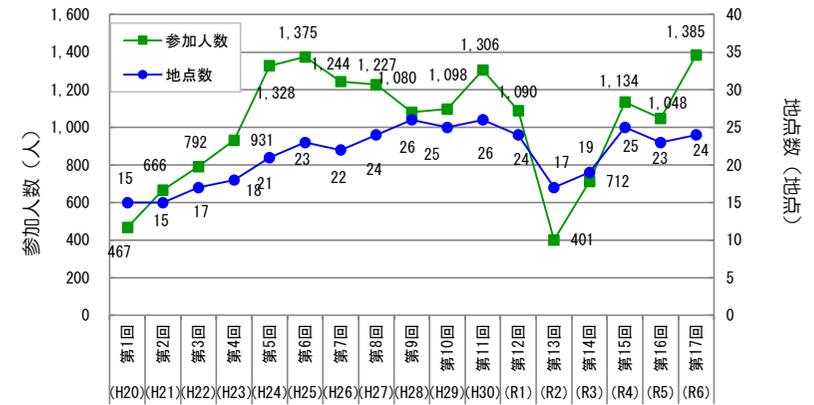
- 湾奥部(B・C類型海域)の東側(St.4、7)で個体数が多い。
  - 第一期行動計画策定前と現在の比較  
大阪府域の湾央～湾口部(A類型海域)では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。
  - 第二期行動計画策定前と現在の比較  
大阪府域の湾央～湾口部(A類型海域)では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。
- ・変化図(底生生物・個体数)



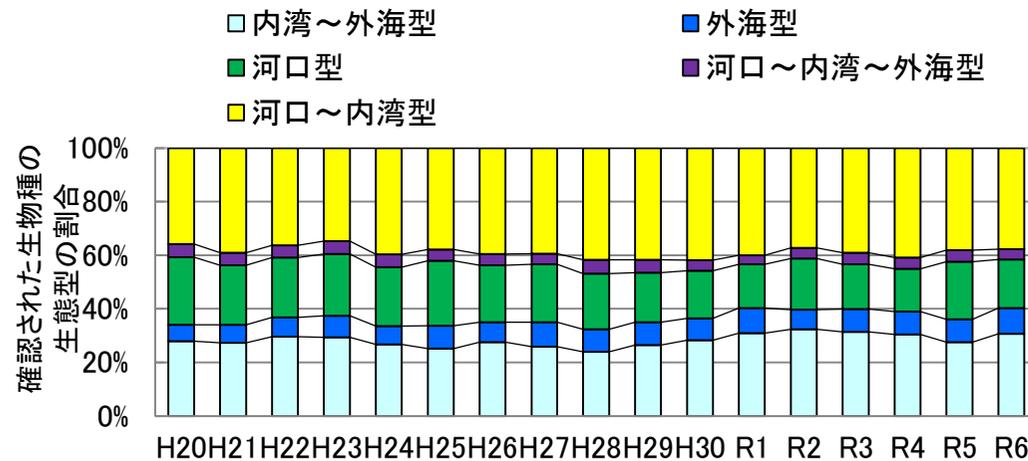
資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター、環境水質 海域の水生物調査(神戸市環境局)  
 ※兵庫県域では平成29年度、令和元年度は底生生物調査を実施していない。令和2年度で調査を終了した。  
 ※神戸市沖: 約0.1~0.13m<sup>2</sup>(H21、H25、H27~H28、H30は約0.15m<sup>2</sup>)当たりの種類数、大阪府域: 0.1m<sup>2</sup>当たりの種類数

# 3. 海岸生物

- 確認した生物は**662種**（水生生物群**491種**、陸生生物群**171種**）、その内貴重種は**95種**。
- 全体的に内湾～外海型や河口～内湾型の種の出現頻度が高かった。内湾～外海型のイボニシは全ての調査地点で確認され、次いで、タマキビガイが19地点中18地点で確認された。河口～内湾型の生物ではユビナガホンヤドカリが17地点、マガキが16地点で確認された。また、河口型の生物ではタカノケフサイソガニが14地点、ケフサイソガニが12地点で確認された。



注) スナメリ調査の1地点を含む。



注) 第1回の調査以降実施していない地点を除く。

# 4. 藻場、干潟、浅場の整備面積・緩傾斜護岸の整備延長

## 【藻場】

● 累積整備面積：41.8ha

## 【干潟】

● 累積整備面積：1.3ha

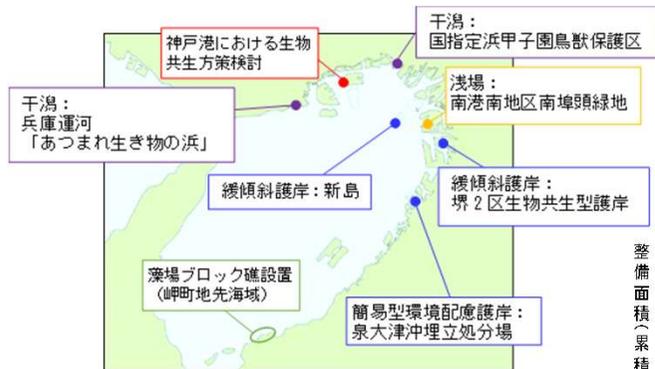
## 【浅場】

● 累積整備面積：2.4ha

## 【緩傾斜護岸】

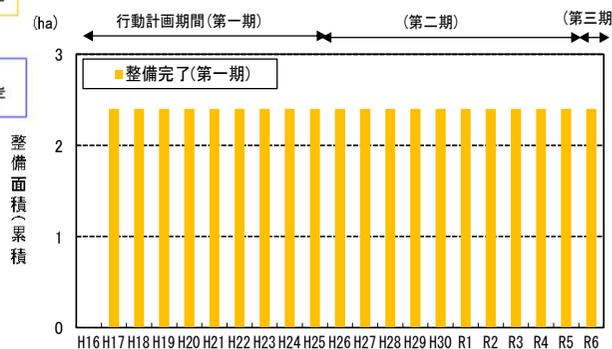
● 累積整備延長：4.4km

➡ 令和6年度は藻場の整備（藻場ブロック礁設置）が実施された

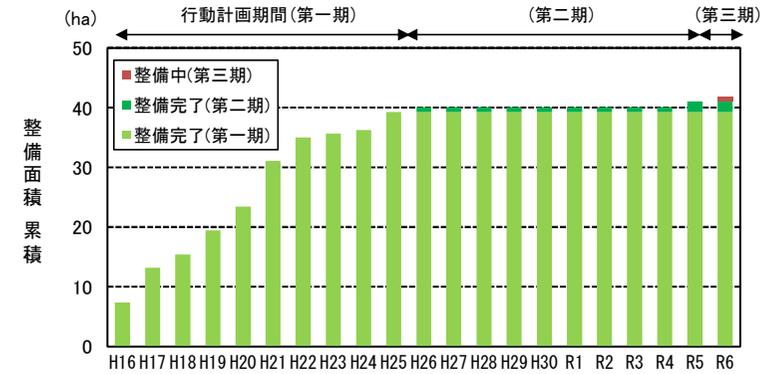


大阪湾再生行動計画策定以降の整備実施場所

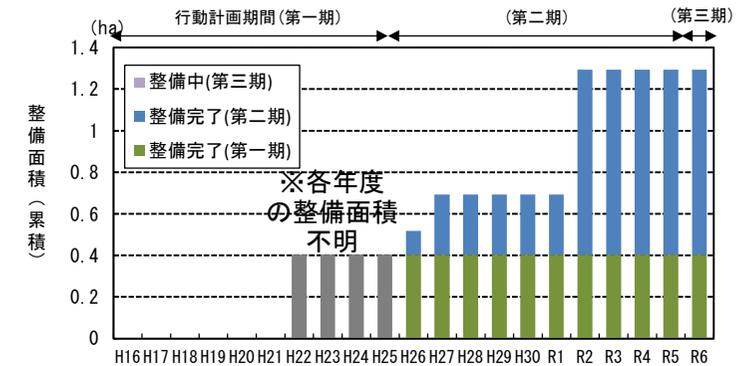
【浅場】(累積)



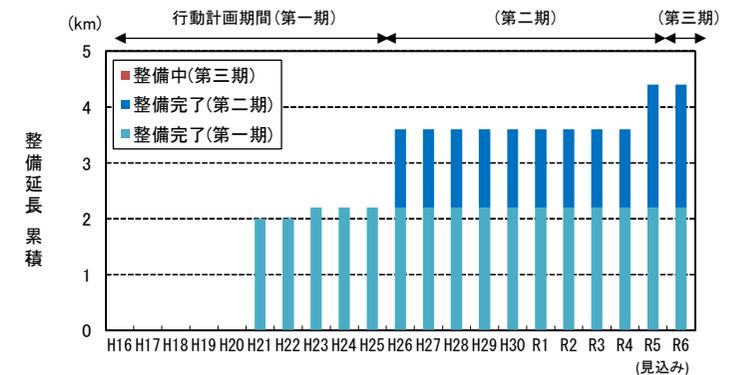
【藻場】(累積)



【干潟】(累積)



【緩傾斜護岸】(累積)



# 親しみやすい「魚庭の海」に 向けた取り組みの状況

# 親しみやすい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その1）

## 取り組みの状況

### 1. 砂浜、親水護岸・親水緑地等の整備

- 舞洲と夢洲の連続した海岸線における砂浜や磯場、干潟の造成を継続実施。
- 尼崎臨海地域、海面廃棄物処分場跡地の緑地等への活用を推進。
- 漁業者・ボランティア等による下草刈りを実施。

### 2. イベントの開催(海の危なさを知るものも含む)

- 兵庫運河の人工干潟や尼崎運河の水質浄化施設など、親水空間を活用した環境学習イベント及び港湾施設見学会や海洋環境教室などを開催。

### 3. 各施策への多様な主体や世代の参画促進等

- 防災・環境学習・活動、体験学習等の実施。
- 若者たちが主体的に参画できる場と機会の創出。

### 4. 魅力的な景観の情報発信

- みなとでの活動や防災、にぎわい等のフォトコンテスト等の実施。



# 親しみやすい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その2）

## 取り組みの評価結果

### 1. 砂浜・親水護岸・親水緑地の整備面積・延長

- 親水護岸の整備延長： 累積6.0km
- 親水緑地の整備面積： 累積84.2ha

### 2. 親水施設への訪問者数

- 海水浴場や親水公園等多くの施設で多くの訪問者があった。

### 3. イベントの開催状況

- 出前講座等の環境学習や海づくり大会等のイベント、森林整備・清掃活動等の多彩なイベントを開催し、多くの参加があった。

## 取り組みの成果

- 親水施設等で開催した多彩なイベントに多数の参加を得るなど、一定の成果を得た。
- 今後も、パブリックアクセスを踏まえた魅力的な親水施設の整備、多彩なイベントの実施、及び市民・企業等が積極的に参画できる取り組みの推進が望まれる。

# 1. 砂浜、親水護岸・親水緑地等の整備

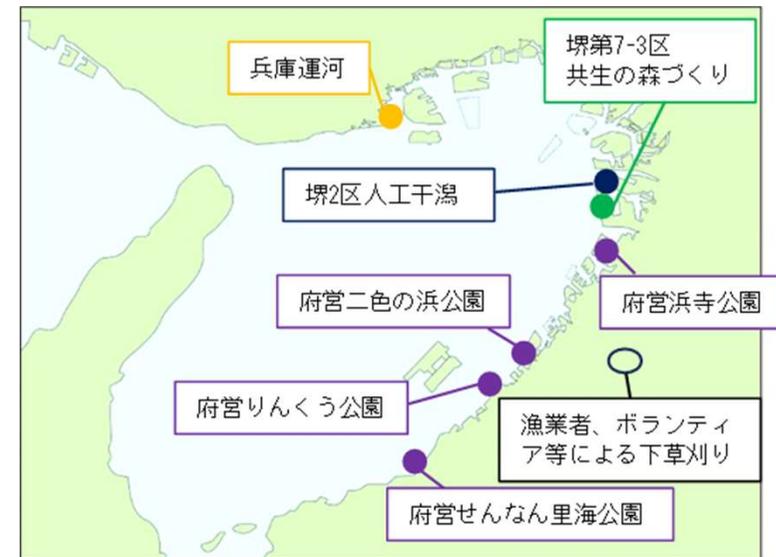
- 舞洲と夢洲の連続した海岸線に砂浜や磯場、干潟の造成、海辺の緑化の継続実施。[大阪市]
- 尼崎臨海地域の緑化(尼崎21世紀の森)の推進。[兵庫県]
- ポートアイランド(第2期)西緑地の整備の実施。[神戸市]
- 府営りんくう公園の整備を実施。[大阪府]
- 堺第7-3区共生森づくり事業を実施。[大阪府]
- 兵庫運河の新たな活用や周辺の活性化のための設計整備を実施。[神戸市]



整備実施場所



堺第7-3区共生の森づくり事業の様子



主な親水緑地の整備等実施場所

## 2. イベントの開催

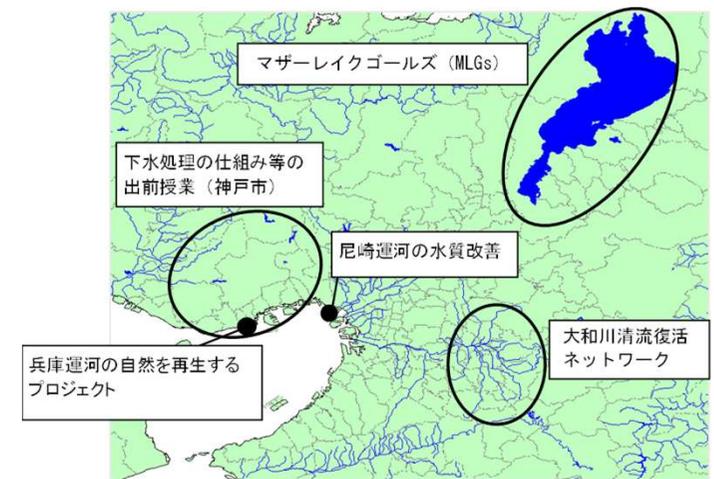
- 四大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾、広島湾）の海の再生プロジェクトの成果や課題、教訓などを基に、全国の閉鎖性水域の再生プロジェクトに展開させるとともに、全国の海の環境再生につながる取り組みの情報共有・情報発信を行うことを目的とした『第19回海の再生全国会議』を中部地方にて開催。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 岸和田市港緑町（南海浪切ホール）において、魚庭（なにわ）の海づくり大会を開催。[魚庭の海づくり実行委員会（大阪府漁連、大阪府、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所）]
- 尼崎運河の水質浄化施設で市内の小中高生などを対象に環境学習会を継続実施。[兵庫県、尼崎市]
- 市民によるアコヤ貝育成を通じた水質保全活動に対する、神戸市の技術面等からの支援を継続実施。[兵庫運河・真珠貝プロジェクト]
- せんなん里海公園において、淡輪小学校4年生の生徒を対象に、生物や海岸についての講演、生物観察、稚魚放流等のイベントを継続実施。[大阪府、岬町教育委員会、（公財）大阪府漁業振興基金、（公財）公園協会、関西大学]



主なイベントの実施場所

### 3. 各施策への多様な主体や世代の参画促進等

- 琵琶湖版SDGsである「マザーレイクゴールズ」を中心とした取り組みを継続実施。[マザーレイクゴールズ推進委員会、滋賀県]
- 「大和川清流復活ネットワーク」において、市町村や民間団体との情報共有を継続実施。[奈良県]
- 緑地の一部を魚釣り場として開放（舞洲：230m、咲洲海浜緑地：215m、鶴浜緑地：50m）。[大阪市]
- 大学等との連携による尼崎運河の水環境改善に係る実験・環境学習会を継続実施。[徳島大学、兵庫県、尼崎市]



主な市民や企業の取り組みへの参画促進、  
取り組みの支援実施場所

### 4. 魅力的な景観の情報発信

- 「せんなん里海公園の魅力フォト」として、公園内で撮影された写真を4月～10月末まで募集し12月初めよりビバレー玄関ホールに37点を展示中。大阪湾をバックに魅力ある写真が多数応募された。[せんなん里海公園事務所]

# 親しみやすい「魚庭の海」に 向けた取り組みの評価結果

# 1. 砂浜・親水護岸の整備延長・親水緑地の整備面積

## 【砂浜】

● 累積整備延長：0.2km

## 【親水護岸】

● 累積整備延長：6.0km

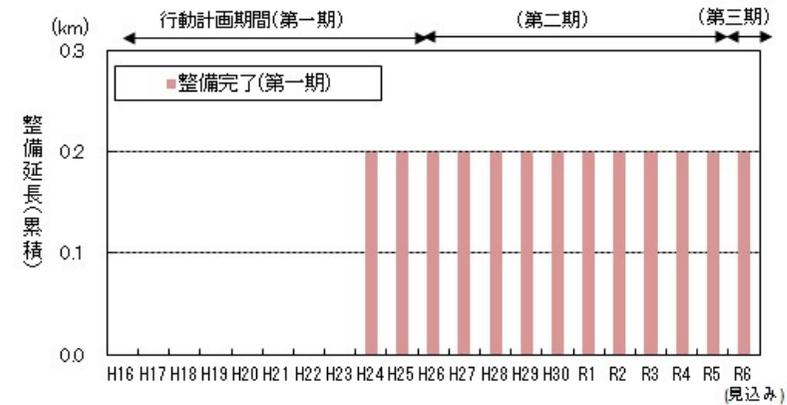
## 【親水緑地】

● 累積整備面積：84.2ha

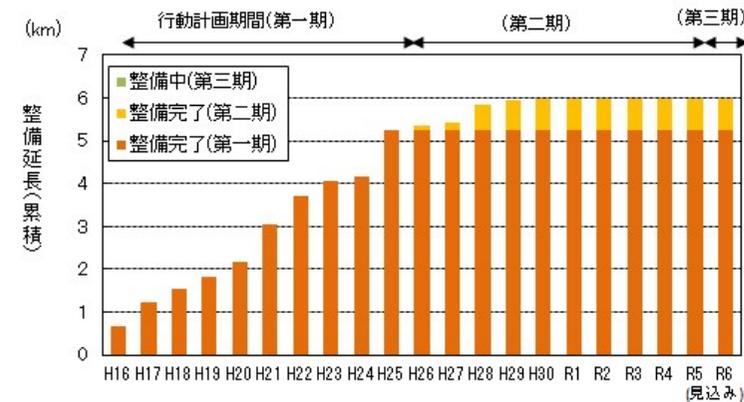


令和6年度の整備実施場所

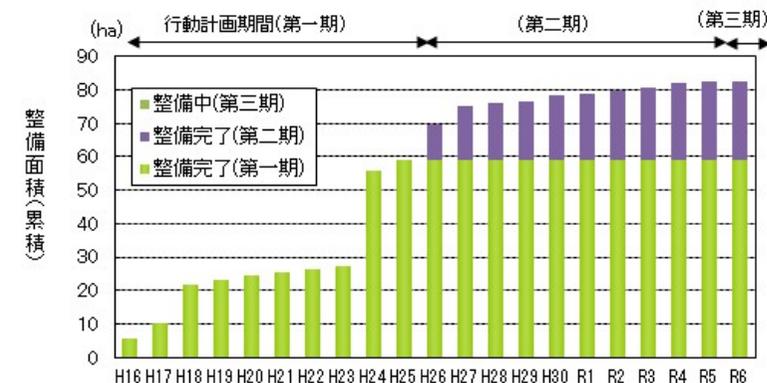
## 【砂浜】(累積整備延長)



## 【親水護岸】(累積整備延長)



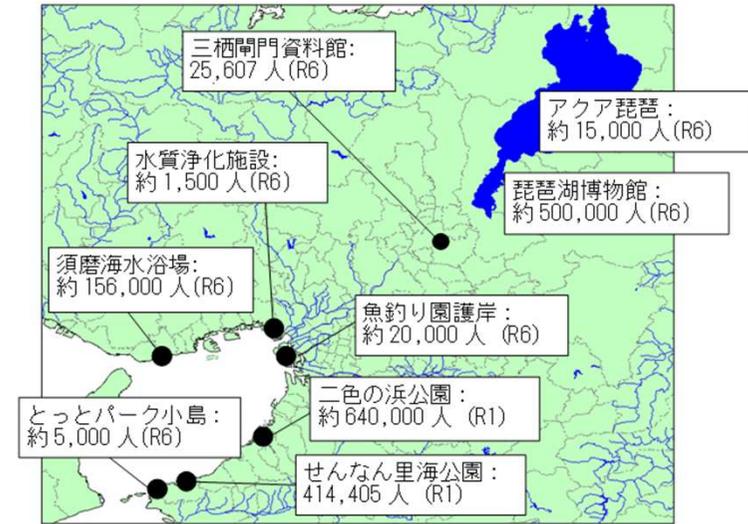
## 【親水緑地】(累積整備面積)



# 2. 親水施設への訪問者数

## 【親水施設への訪問状況】

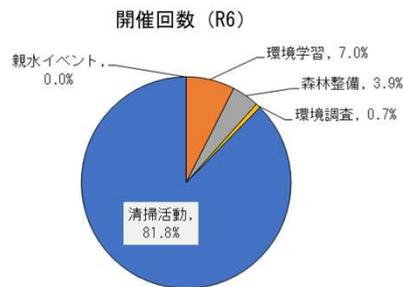
- 須磨海水浴場：約156,000人 (R6)
- 水質浄化施設：約1,500人 (R6)
- 魚釣り園護岸：約20,000人 (R6)
- 二色の浜公園：約640,000人 (R1)
- せんなん里海公園：414,405人 (R1)
- とっとパーク小島：約5,000人 (R6)



主な親水施設への訪問者数

# 3. イベントの開催状況

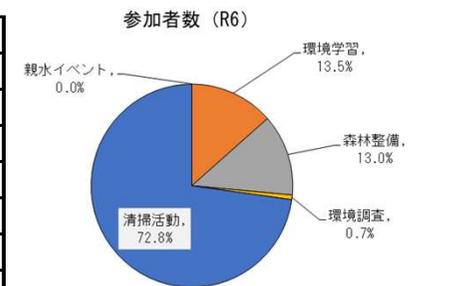
項目	R6
親水イベント	0
環境学習	426
森林整備	238
環境調査	41
清掃活動	4,975
分類不明	0
合計	5,680



■親水イベント ■環境学習 ■森林整備 ■環境調査 ■清掃活動

イベントの開催回数

項目	R6
親水イベント	0
環境学習	50,970
森林整備	49,050
環境調査	2,759
清掃活動	275,135
分類不明	0
合計	377,914



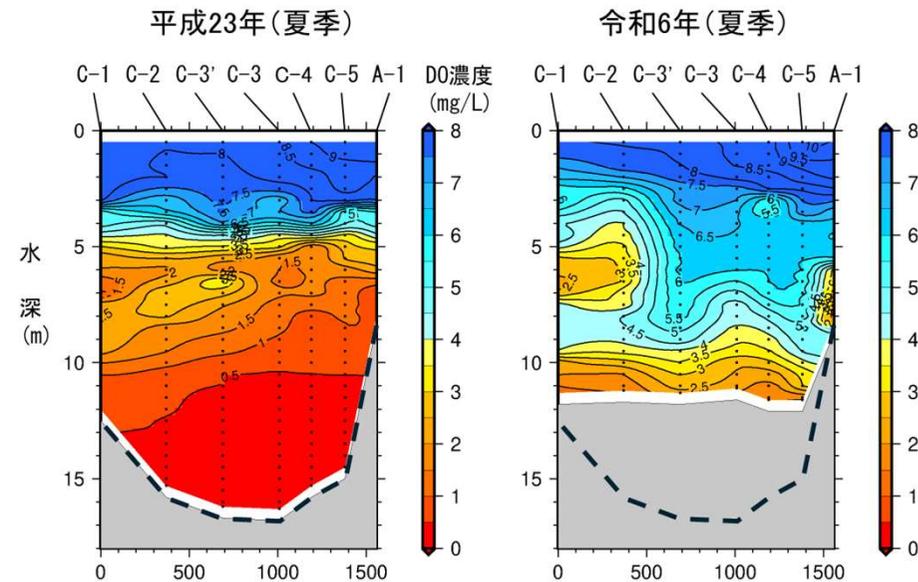
■親水イベント ■環境学習 ■森林整備 ■環境調査 ■清掃活動

イベントの参加者数

## Ⅱ 重点的な取り組みの成果

# 1. 湾奥部における底層DOの改善対策強化

- 大阪湾には大規模な窪地が21箇所あり、底層水の貧酸素化が進行している。窪地による周辺海域の貧酸素化を解消するため、引き続き阪南2区、4・6区沖への土砂投入による窪地修復を実施した。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 阪南2区窪地に、大阪港北港南地区航路の発生土及び武庫川の河川土砂を、令和6年3月時点で累計約474 万m<sup>3</sup> の土砂を投入し、埋め戻し予定箇所の約95%修復している。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 阪南4・6区沖窪地に、和歌山下津港の発生土の投入を実施した。[近畿地方整備局港湾空港部]



※点線は平成23年夏季調査の水深を示す。

窪地埋め戻しによる底層DOの環境改善

## 2. 栄養塩類偏在対策強化

- 大阪湾の湾南部における栄養塩濃度の管理方法について検討した。[大阪府]
- 底質環境を改善するため、小型漁船が専用の桁を曳航し海底を耕耘する取組みを実施。[漁業者組織(神戸市、洲本市、淡路市)、大阪府漁連]
- ため池の適正な維持保全と浅場への栄養塩供給を目的とした、漁業者と農業者が連携によるため池の池干し(かいぼり)を2箇所(淡路市)で実施。[漁業者組織(淡路市)]

# 3. 多様な主体との連携

- 大阪湾再生に取り組める次世代の育成等や、市民団体・民間企業等とのネットワークの強化を図るため、引き続き大阪湾フォーラム、大阪湾生き物一斉調査、大阪湾再生水質一斉調査等の各種イベントに参加した。[神戸港湾空港技術調査事務所]
- 官民連携の体験活動の実施に向けて、ヒアリングを行った民間企業との連携を推進した。[近畿地方整備局]
- 大阪湾再生行動計画における官民連携の取り組みを推進するため、次世代を担う高校生を対象とした「第4回大阪ベイスクール」を11月24日(日)に開催。兵庫県内の高校(3校)を対象に、海でのアクティビティを中心に、環境調査体験や実験等を実施し、大阪湾の環境について様々な視点から考察した。[近畿地方整備局港湾空港部]



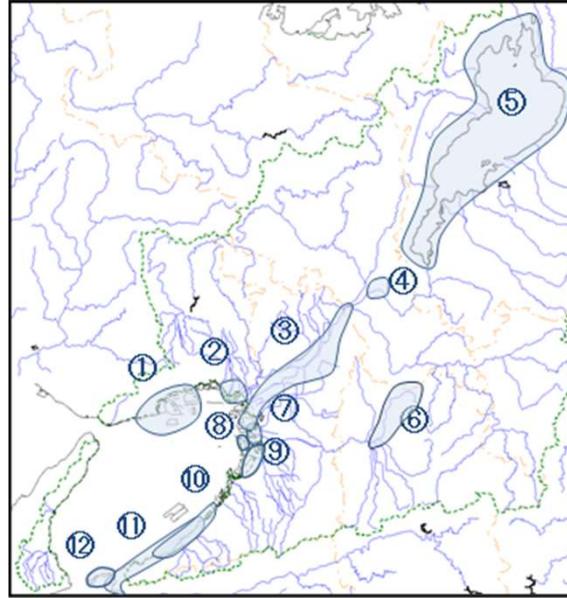
「大阪ベイスクール」の様子

# 4. 2050年カーボンニュートラルの実現 に向けた取り組み

- ブルーカーボンクレジット化の継続、藻場拡大検討 [大阪市、大阪府]
- 令和4年1月に策定した「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン～藻場の創造・保全による豊かな魚庭(なにわ)の海へ」に基づき増殖場(藻場)の造成を実施 [大阪府]
- ノリ養殖のブルーカーボンクレジットの可能性を評価するとともに、アマモ場創出ガイドブック(仮)を作成中 [兵庫県]

# Ⅲ アピールエリアでの 活動状況

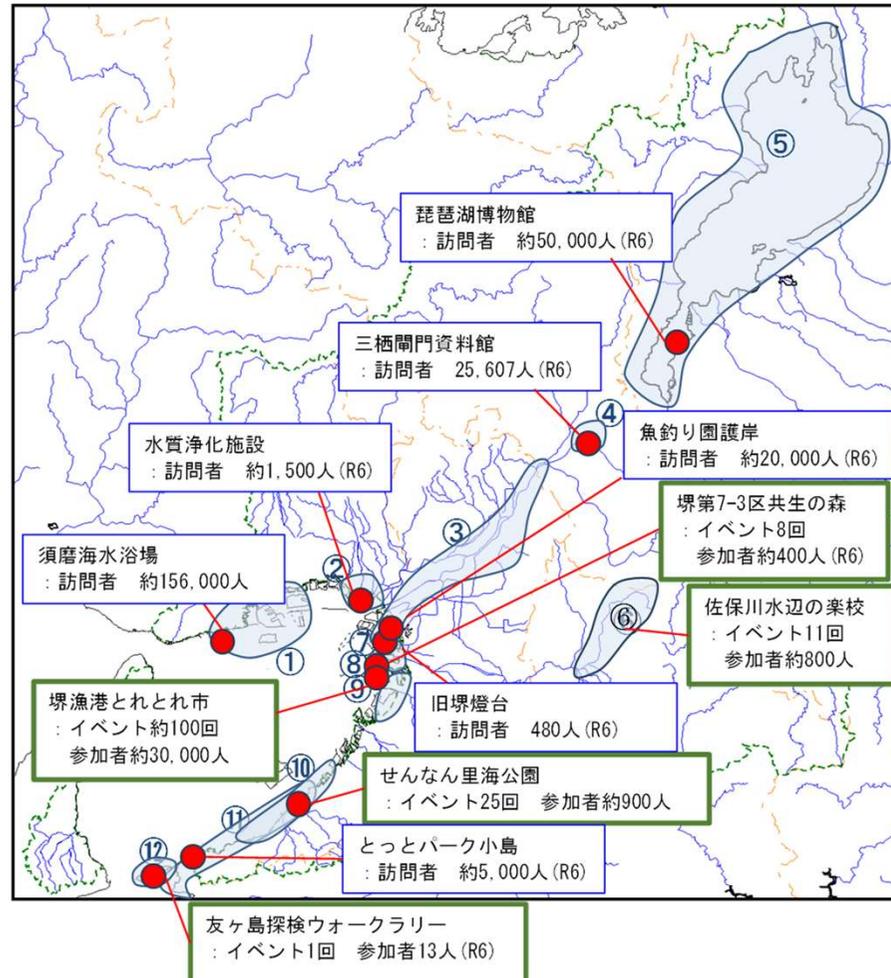
# 1. アピールエリアの設定状況



No.	アピールエリア	アピールエリアに含まれるアピールポイント
①	潮風かおる港町神戸	須磨海岸、兵庫運河、ハーバーランド～神戸、ポートアイランド、神戸空港
②	水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺	尼崎運河周辺、甲子園浜周辺
③	まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺	大阪市内河川(大阪ふれあいの水辺、城北川遊歩道)、淀川(矢倉緑地公園、淀川の干潟)、中之島、咲洲(野鳥園臨港緑地)
④	水とともに歩いて400年 歴史の転換を担ったみなとまち・伏見	伏見港を核とした伏見地域
⑤	豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖	琵琶湖
⑥	市民が参加した川づくりが進む佐保川	佐保川
⑦	海に親しめる多様な場がある堺の海辺	堺浜、堺旧港
⑧	市民が参加した森づくりが進む臨海部の森	堺第7-3区共生の森
⑨	海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港	堺(出島)漁港、高石漁港
⑩	海水浴やマリンスポーツが楽しめる泉州の海岸	二色の浜、せんなん里海、りんくう公園
⑪	海の恵みを楽しめる泉州の漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、西鳥取漁港、下荘漁港、淡輪漁港、深日漁港、小島漁港、加太港
⑫	楽しみ学べる友ヶ島	友ヶ島

# 2. アピールエリアの訪問・イベント開催状況

●各アピールエリアの親水施設等に多くの訪問者が訪れ、多彩なイベントに多くの人に参加している。



□ : 親水施設への訪問状況

□ : イベントの開催状況

<主な親水施設等への訪問状況、イベントの開催状況>

# 3. アピールエリア毎の状況(その1)

<p>①潮風かおる港町神戸</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・須磨海岸の須磨海水浴場では訪問者数は約15万6千人であり、大阪湾生き物一斉調査が実施された。</li><li>・兵庫運河祭や神戸マラソン等のイベントが開催された。</li></ul> <p>⇒親水施設への訪問やイベントへの参加を通して、須磨や兵庫運河等の環境や生き物について学ぶ機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>②水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・尼崎運河周辺の水質浄化施設では訪問者数は約1,500人（見込み）であり、尼ロック（尼崎閘門）防災展示室のイベントは532人の参加があった。</li><li>・尼崎市立魚釣り公園では釣り大会等、甲子園浜海浜公園では大阪湾生き物一斉調査が実施された。</li></ul> <p>⇒親水施設への訪問やイベントへの参加を通して、水に親しむとともに防災について知る機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>③まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・魚釣り園護岸では約20,000人（見込み）の訪問があった。</li><li>・桜の宮ビーチフェス2024では期間中に約800人の参加があった。</li><li>・野鳥園臨海緑地では「春の渡り鳥観察会」等、6回のイベントを催し、181人の参加があった</li></ul> <p>⇒まちなかの水辺・海辺空間を活用したイベント等が開催され、多くの参加者を得ている。これらを活用して水に親しめる機会を創出していくことが望ましい。</p>

# 3. アピールエリア毎の状況(その2)

<p>④水とともに歩んで400年 歴史の転換を担った みなとまち・伏見</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・三栖閘門資料館では訪問者数は<b>25,607人</b>であった。</li><li>・桃山語り部の道 桜まつり等が開催され、参加者は延べ<b>約3,000人</b>であった。</li><li>・ふしみな一とでは、11月9日にふしみな一とフェスタを開催し、参加者は延べ<b>約3,300人</b>であった。各種SNSやチラシの配布を行った。来場者からは、「今後も定期的にこのようなイベントを行ってほしい。」といったお声をいただいた。</li></ul> <p>⇒伏見港周辺の水辺空間や親水施設を活用したイベント等が開催され、多くの参加者を得ている。これらを活用して水に親しめる機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>⑤豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・アクア琵琶では訪問者数は<b>約1万5千人</b>(見込み)であり、水辺の匠が開催された。</li><li>・琵琶湖博物館では訪問者数は<b>約50万人</b>(見込み)であり、観察会・見学会等が開催された。</li><li>・琵琶湖では外来魚釣り大会が開催され、参加者数は<b>217人</b>であった。</li></ul> <p>⇒親水施設では琵琶湖の豊かな自然や歴史を学ぶことができるイベントが開催され、多くの訪問者、参加者を得ている。イベント等を開催していくことが望ましい。</p>
<p>⑥市民が参加した川づくりが進む佐保川</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・大安寺河川公園では、大和川一斉清掃と「奈良県山の日・川の日」川の清掃デーが開催された。「奈良県山の日・川の日」川の清掃デーの参加者数は<b>4,426人</b>であった。</li></ul> <p>⇒清掃活動イベントが開催され、多くの参加者を得ている。今後も清掃活動等により市民参加を促進していくことが望ましい。</p>

# 3. アピールエリア毎の状況(その3)

<p>⑦海に親しめる多様な場がある堺の海辺</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「乙姫の休日。in堺旧港2024」を開催。親水護岸を憩い・レクリエーションの場として実験的に開放（ストリートファニチャ・仮設店舗の設置、プレジャーボート乗船体験等の海辺のアクティビティを実施）した。</li><li>・堺旧港の史跡旧堺灯台公開イベントの参加者数は<b>480人</b>であった。</li></ul> <p>⇒親水施設や史跡を生かしたイベントを開催し、海に親しめる機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>⑧市民が参加した森づくりが進む臨海部の森</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・森MORI！Sunディとして、8回のイベントを開催、延べ参加者数は<b>約400人</b>であった。イベントでは、過去に植栽した樹木が適正に育つように草刈、間伐等を行うとともに、自然観察・自然クラフトなどを通して、自然環境の重要性等を感じてもらった。</li></ul> <p>⇒臨海部における市民参加による森づくりを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>⑨海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・堺漁港ではとれとれ市が開催され、参加者数は<b>約3万人</b>であった。ホームページ等を活用してPRを行っている。</li></ul> <p>⇒海の恵みを楽しめる機会を創出していくことが望ましい。</p>

# 3. アピールエリア毎の状況(その4)

<p>⑩海水浴やマリ ンレジャーが楽 しめる阪南・泉 南の海岸</p>	<p>・せんなん里海公園では、淡輪箱作海岸・磯浜見学会や親子しぜん体験会等のイベントが開催された。なお、大阪湾生き物一斉調査には約220人が参加し、参加者から「生き物が多く、捕まえた生き物を説明してもらえてよかった。」等の意見が寄せられた。</p> <p>⇒親水公園や海浜等の親水施設に多くの人を訪れるとともに、これらの施設を活用した多彩なイベントが開催されている。海水浴やマリンレジャーを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>⑪海の恵みを楽 しめる阪南の漁 港</p>	<p>・とっとパーク小島（釣り公園）では訪問者数は約5,000人であった。</p> <p>・西鳥取漁港では波有手（ぼうで）のカキ小屋が開催され、参加者数は約7,500人であった。</p> <p>・佐野漁港では泉佐野青空市場、田尻漁港では日曜朝市が開催された。</p> <p>・深日漁港では、深日漁港ふれあいフェスタが開催され、参加者数は約4,000人であった。</p> <p>・大阪湾生き物一斉調査には12人が参加し、参加者から「しんせんでとても楽しかった。」等の意見が寄せられた。</p> <p>⇒釣り公園では多くの人を訪れ、漁港では市場や祭り等を定期的に行っている。海の恵みを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。</p>
<p>⑫楽しみ学べる 友ヶ島</p>	<p>・友ヶ島探検ウォークラリー「ウミプラー ～海とプラスチックの友ヶ島での物語～」を開催し、友ヶ島を舞台に、海環境について観光を楽しみながら学んだ。13人が参加し、参加者から「友ヶ島の歴史を感じられた」「癒しのスポットだった」「海や景色がとてもキレイ!」「思ったより遠くからごみが流れてきている」等の意見が寄せられた。</p> <p>⇒SDGs未来都市に選定された和歌山市の持続可能な海づくりに向けた取組の一環として、友ヶ島の歴史・文化等を楽しむとともに海岸漂着物の現状を知る機会を創出していくことが望ましい。</p>

第三期計画においても、  
目標達成に向けた取り組みを  
着実に推進する。

